

携帯用容器

兵士はさまざまな装備品や付属品を携帯した。砲手には火薬や弾薬を入れる容器があり、荷役は弾薬や火縄を入れた大きな箱を持ち、戦いの前に部隊に配った。19世紀半ばに出版された図説百科事典『武器百圖』の一コマには、次のようなものが描かれている。

- (1) 弾薬などの小物を入れる腰袋。
- (2) 棒でつながれた一組の道具箱。

これらの箱は、火縄銃の弾や火薬の運搬に使われた。砲手の従者が肩に担いで持ち運んでいた。下の展示ケースには、砲兵とその従者が使用した箱やケース、ポーチなどの例があります。火縄銃の弾を入れる筈筒は、戦場に持ち込むことを想定して、角を頑丈に補強し、雨漏りを防ぐために上ではなく前が開くようになっている。